京城日報

紀元二千五百六十七年　西暦一千九百七年　韓國光武十一年　陰曆丁未五月十三日
（月曜日及大祭翌日休刊）
本紙定價　●一枚三錢五厘●一ヶ月前金四十錢●三ヶ月前金一圓十五錢●六ヶ月前金二圓二十錢●地方郵送費一ヶ月十三錢
廣告料　●五號活字十九字詰三十錢●四號活字十四字詰四十五錢●回數及行數割引あり●特別廣告一行卅五錢割引なし
發行兼編輯人　副島嘉六
印刷人　林久次郎
發行所　京城大和町一丁目　京城日報社　電話六百六十番

居留民團公文

告示

告示第十五號
本職本日ヨリ出張ニ付不在中會計役仁科正胤ヲシテ代理セシム
明治四十年六月二十三日
京城居留民團民長　熊谷頼太郎

外電一束

△英國

◎日本公債不況（十九日倫敦發）倫敦市場に於ける日本公債の人氣は頗る沈靜せり伯林市場には賣物出でたり

◎前植相危篤（十九日紐育發）チヤムバレーン氏は病氣危篤に陷りたり或は回復の望なかるべしといふ

△獨國

◎獨逸の悪感（十八日倫敦發）獨逸各新聞は英西、佛西間の協約につき評論を試み知らず〳〵の間に甚しき不快の觀念を暴露しつゝありターグブラットの如きは此を以て獨逸に對抗するものなりと思考せり

◎三國協約と獨逸（十八日伯林發）地中海及太西洋の現狀維持に關する英西佛三國の協約は前記三國の駐獨大使より内密に獨逸政府に通告せられたり
新協約には別に附屬の軍事協約若くは秘密取極等なきが如し獨逸は新協約が平和的性質のものなりといふことを信用せざるにあらず

◎山本大將（上同）山本大將はキールに於て熱心なる歡迎を受けたり

◎暹羅國王（上同）暹羅國王は巴里に向け伯林を出發せり

△露國

◎漁業協約（十九日倫敦發）露都來電に據れば日露兩國間の漁業本協約は漸く起艸せらるゝの運に至れり調印は來週水曜日ならん

◎暴動益猖獗（十九日浦潮發）セバストポール軍港の暴動益々猖獗にして同港務部長も殺されたり

△東露

◎邦人被害（十九日浦潮發）チタにて邦人二名殺され五名負傷す原因不明

△支那

◎日佛協約と支那（十九日北京發）那桐氏は日佛協約の内容を聞き頗る滿足の

◎露公使歸京（上同）露國公使ポコチロフ氏は北滿税關談判の爲め昨日北戴河より歸京せり

◎練習艦隊（十九日青島發）松島嚴島橋立は十九日午後三時入港せり

△滿洲

◎林公使談（十八日寬城子發）林公使語つて曰く、滿洲政策の根本たる鐵道も今や漸く其緖に就き滿洲經營は今後大に發展すべし余も視察の結果得る所少からず鴨綠江森林問題の解決は兩三年の後なるべく清國の屈服するまで放擲するの心算なり云々

◎公使領事の召集（十九日寬城子發）林公使は當地に哈爾賓、吉林、長春三領事を集めて外交問題に就き會議を開けり

●古市博士鐵道談（前承）

（十八日韓國經濟協會例會に於て）

次に營業狀態に就て少しく御話しようと思ふ、此の材料は全く最新の事實で、部外の者は誰一人知つた者はない、正眞正味の新材料であるから、諸君も其積りで有難く聞いて戴きたい（拍手）、ソレから此材料は政府に報告する統計とも異つて居るを承知して貰ひたい、その理由を申すと、連帶運輸の場合の如き、例へば南大門より新橋迄の運賃は一纒めにして南大門驛で取るのであるが、我管内即ち京釜線の運賃を差引いた殘額は、それ〴〵關係鐵道へ拂戻をせねばならぬ、處が政府の勘定法に據ると運賃の全部を一先づ南大門の收入として仕舞つて、拂戻は總て支出勘定とすることになつて居る、ソコで正味の營業狀態は一寸分り兼ぬるのである、次に連帶輸送の決算はドウしても遲れるものであるから、二月三月の分は翌年度の勘定に廻すといふことになつて居る、ソレで又本當の營業狀態とは多少の相違が出るのである、然るに今日諸君に御話するのは、此等の連帶勘定をも正確に決算した正眞正味の營業狀態で、政府への報告以上の價値があります。

さて京釜京仁兩線の三十九年度に於ける收入額は百五十一万六千九百八十六圓、支出は百三十二万六百四十三圓で、結局純益十九万六千三百四十三圓餘りになる、然し昨年度の豫算では僅に百七十七圓の利益を見てあつたので、之を總資本額に比較すると餘程滑稽なものです、然し兎に角今年の決算で一躍十九万圓臺を示したのは、全く茲に居られる岡運輸部長の功績であります、私も今度歸つたら大に誇つて遣らうと思つて居ります。

京仁線開通の當時に於ては、一日一哩の收入僅に七圓五十一錢に過ぎなかつたのが、其後漸次増加して、京釜鐵道が買收した當時の京仁線收入は三十圓臺でありました、其後日露戰爭の開始と共に、軍隊輸送其他で非常に收入が殖へ、五十圓に上りましたが、京釜線開通後は四十一圓臺に減じ、昨年の如きは四十五圓位でありました、又京釜線の方も最初は一日一哩十三圓位であつたが、昨年は十七圓八十餘錢となり、是れも規則的に順調に上つて居ります、其後兩線の勘定は一つになつたが、今年度の兩線一日の收入豫定額は固より見當がつかぬので、當ずつぽに一日八千九百餘圓にして置いた處、不思議にも能く當つた、今月の上旬迄一日の總收入九千百圓位に上つて居ります。

京釜京仁兩線の收入と内地の鐵道とを比較して見ると、マダ却々懸隔があります、東海道線は一日一哩百十七圓で、却々大したものです、又日本鐵道は六十八圓、山陽も四十六圓餘、九州は五十六圓である、此等に比較すると京釜線今日の收入は如何にも少ない樣であるが、然し能く〳〵事情を考へ合はせると、決して悲觀すべきではありませぬ、前述の通り京釜線は開通の初年に一日一哩十三圓二十四錢の收入を得た、内地の鐵道が此位の收入を得たのは何時頃のことであるが、其を調べて見ると、京釜線の有望な事が判らふと思ふ、日本鐵道の營業開始は明治十六年で、ソレカラ十年を經て明治二十六年頃に至つて始めて十三圓五十六錢の收入を得た、此時は最早や青森線も開通した後である、今其の二十六年に他の各會社線はドウであつたかといふと、山陽鐵道の二十六年に於ける收入は十一圓十錢、此時は僅に三原まで通じて居つたのである、又九州鐵道は當時門司より熊本まで、一方は佐賀まで開通して居つたが、一日一哩十□錢の收入でありました、ソレに比較すると京釜鐵道が開通後間もなく、今日の收入を得たのは、決して不成績とは云はれませぬ、只だ如何せん、韓國の鐵道は營業費が内地に比して非常に高い、此事を一寸申したいと思ふ、韓國では凡ての物價が高いのに連れて役人の俸給も內地の約二倍である、例へば車掌の賃銀の如き內地では一日五十錢位が普通ですが、此處は一圓、機關方も普通一圓ですが、茲は四十錢を給してあります、其他火夫、ポイントマン等の給料も約五割乃至十割位高い、其他カマスを一つ買ふにしても內地の倍から出さねばならぬ、然し營業費に掛かるは試に已むを得ぬ、營業費削減の餘地は大してないから、如何しても旅客、貨物を澤山運送して利益を得るより外に仕方はない、此等の經營に就ては何卒會員諸君も充分に研究せられて御教示あらん事を願ひます、私の方にても先の議會で車輛費をもらひましたから、充分増加する方針です、豫算は京釜京義線にて百三十六臺増加する事になつて居りますが、實際は今少し買へるかと思つて居る。其後に於ける機關車の割合は內地の鐵道ほどには行かぬが、今日よりも大に力を增すに相違ないと信じて居ります。

終に一言して置きたいのは、過般各地の商業會議所から京義線の運賃を安くして吳れとの交渉があつた、私はまあ待つて下さいと返答して置いた、前述の如く營業費は多額に係る、「收益は上らぬ」と云ふ具合で、いくら政府事業だからとて、政府は損しても構はぬと云ふ理には行かぬ、尤も來年四月には今日の便乘を止めて正式に開業する方針であるから、夫れまでに種々の經驗を積み、本式開業の折を待つて何とかしたいと思つて居ります、然し是は私の考、新長官には又夫れ〳〵の意見がありませう、京義線は目下ブッ通し一哩三錢の運賃をとつて居ります、是は餘程飛び離れて高い樣に考へらるゝかも知れぬが、現に東清鐵道、臺灣鐵道でも五十哩以下は三錢、以上は二錢五厘の賃率をとつて居ります。

今一つ最後に申したいのは、京釜鐵道と京城居留民との關係を研究してもらひたい、それに就て少し面白い話がある、三十六年私が作業局長官をして居つた時、中央東線が甲府まで開通した、甲府市民は非常に欣んで、市自ら主人となつて盛大なる開通式を擧げたことがある、元來私は作業局長官として實は御主人でなければならぬのに、御客樣として呼ばれた、若尾逸平君の如きはこれで甲州人は一年百五十万圓の運賃が儲かると云つて欣んで居つた、主任技師の古川君には感謝の金盃を贈るといふ譯であつた、然るに一昨年京釜鐵道が出來上つて、愈々京城釜山間全通となつた塲合に、ドウであつたかといふと、京城居留民は三十六年に中央東線が出來た時に甲州人が喜んだ程には喜ばぬと感じました、是れは餘程不思議に感じました、京城の經濟事情はマダ〳〵大に鐵道を難有がるまでに進まぬのであらうか、本日は京城を逃出すに當りて、唯一言清聽を汚した次第です（拍手）

●東京勸業博覽會（前承）

瓊川生

●各種の織機類（下）

（丙）緯糸補充の裝置　三十九年式は緯糸停止裝置を有し緯糸の切斷又は缺乏したるとき、機械は自動的に運轉を停止し、而して停止の時一二回の空打を行ふことは何の力織機にも免れず、爲に織布の段織を生じ品質を害するに至る、工女は緯糸繋ぎ換に際し手づから之を加減するの煩勞ありしが、豐田式は自動的に之を加減するの裝置を有し此煩勞と如上の缺點を補ひたり、是れ力織機として既に頗る嶄新なるものなれども尚切斷又は缺乏と共に運轉停止を免かるゝ能はざりき。然るに最近に完成せる本機は豫め八丁乃至十丁の杼を織機の杼枠中に挿し込み置き、切斷又は缺乏の塲合には此等の杼をして順次に自動的に交代して引續き緯糸の補充をなさしめ、而して取除かれたる杼は更に運轉中容易に補給することを得、即ち本器は經糸の切斷に依り自動的に運轉を停止する外、織機へ毫も休止することなく、製織額をして蓋し多大ならしむ。

（丁）本機は一分間に二百二三十回の高速度を以て極めて圓滑に運轉し、外國製鐵製織機に比し毫も遜色なきのみならず、却て經糸の切斷を減じ從て產額に著しき增加を見る。

（戊）尺三幅一臺の價百七十五圓、一馬力にて四臺を運轉し得と云ふ、織布事業に有力なる會社個人は概ね既に之を使用せり。

豐田佐吉氏が輕便織機を完成したるは三四年前の事と記憶す、今や既に斯の如き精織品を出すに至る、蓋し發明的天才あるものといふべし聞く所に依れば氏は既に環狀織機を工夫し如何なる大巾物も之を製織し得るに至り今特許出願中なりと、環狀織機は今日世界の爭ふて需めつゝあるもの、氏が偶然にも其工夫を此方面に向けて成功したるは氏が世界的發明の頭腦を有するものなりとして妨げず余は豐田氏の環狀織機の如何に精巧なるかを知らずと雖も、今回出品の運轉狀況に照らし本機が少くとも木綿織機として國內に獨歩するのみならず世界にも多く比類なきを信じて疑はざるなり。今や時運の發展に乘じ豐田氏は百万圓の會社組織を以て斯機の製造に從事しつゝあれば其綿布業界に裨益する多大なるものあるべし

◎韓人向日本貨物（承前）

（總稅務司調査）

●金物類●

△鍋●　古來韓國には鍋なるものなく日本に於て俗に釜と稱する物を代用し來りたるが如し但し小量の煮物をなすには日本の鋤燒鍋樣の物を用ゐたりしが開港以來一時日本商人は韓國鍋に模造し俗に梅鍋と稱する韓國舊來の鍋は漸く後を絕つに至り爾後純粹の日本鍋輸入せられて又梅鍋に代り大に韓民の嗜好に適し好況を呈せり今種類に依り價格を示せば大小に因り固より一ならずと雖大略左の如し

大和鍋　一貫に付　三十五錢
　直徑一尺もの　二十五錢
梅鍋　同九寸もの　二十錢
　大　二十五錢
琺瑯鍋　中　十六錢
　小　八錢

△釜●　日本より輸入する韓國形の釜は良く韓民の嗜好に適し賣行好調にして現今韓民の韓國製の釜を使用する者殆んど稀なるに至れり蓋し數年前俗に新製釜と稱する舊來の釜に比し約二倍の深さを有する釜付（金物）のものを輸入せしに賣行好良にして韓民の好評を博し引續き今日に至れるものとす而して韓民中或は日本製は「コゲ」付く憂ありと言ふものあるも是れ韓國製は厚さ殆んど日本製に比し二倍位なるを以て或は此の批難を招きたるやの疑ある畢竟炊ぎ方の未熟なるが故なるべく之を要するに釜も鍋と同じく供給は目下日本の獨占舞臺なり當業者若し夫れ之に滿足する事なく益韓民の不便不足を減ずる點を探究し一層改良を施すあらんか將來の輸入額は蓋し莫大ならん

△ナイフ、フォーク其他の西洋食器●　單に上流社會一部の需要に止り未だ一般に使用せられず韓民生活の程度上進するに非れば當分賣行の見込なし

△庖丁類●　日本形出刃庖丁は氣受宜しく賣行好況なるも之に反して薄刃、刺身庖丁等は賣行思しからず凡て韓人は魚類肉類を調理するに骨を切り去ることなく其儘調理するものなれば庖丁の如きも堅牢ならざるべからず小刀は賣行最も好調にして俗に「メス」と稱する水兵用ナイフは需要最も活潑なり是れ細工用其他日常身邊の用を果すに便利なるが故にして將來輸入增加の見込あり

霞の笆（五十）

有明山樵

空は俄かにかき曇つて、今にも降出しさうな景氣になつた。市ヶ谷から電車に乘り、飯田橋で乘換へて、大曲りまで行き、是から降て橋を渡り、傳通院前に來掛つた頃は、十一時少し過ぎ。

突然一人の曲者は、行手にすつくと立塞つた。春野避て通らうとすれば、右に遮り左へ支へて、妨げようとするのである。春野も流石に怒を帶びて、ツカ〳〵と立寄り、薄明に透して見れば、こは如何に、正しく鑿の夜死骸を提げた、見覺ねの兇漢、同じ外套を着て頭巾眞深にかぶつて居る。

「ヤア貴さまは」と叫びも敢ず、春野は飛掛つて取押うとした。此の時覆面の曲者二人各自洋杖を持て物蔭から躍出し、春野を取圍んで、打仆さうと競蒐つた。春野は懸命の力を出して、外套の曲者を引捉へ、捻伏せうと爭つたが、如何せん多勢に無勢、忽ち數ヶ所に疵を受た。若しも此の際三分間、通行人がなかつたならば、恐く春野は曲者に、一命を授けたであらう。

三人の曲者は、頻りに春野を亂打したが、此の時二三輛の人力車は、勇しく驅て來たので、曲者も周章狼狽、我先にと逃失た。

春野は無念遣る方なく何處までも追て行く氣で、十歩餘り驅出したが、疵の痛みに足も運べむ、忽ちばつたり仆れ伏した。

折から來かゝつた一人の巡査は、角燈を振り翳して。

「貴君何かしたのか」

「ハイ、今私が此處を通かゝると、賊が三人顯はれて、打殺さうとしました、實に殘念、是非とも捕へてくれたいです」

更に立起らうとするを制して。

「見れば數ヶ所に傷がある、貴君宿は」

「ツイ此の先の久堅町です」

「姓名は」

「春野耕吉と云ひます」

「賊に何か奪れましたか」

「イヤ何も取られません、唯生命を取られかゝつたです」

「そいでは恨のある者ぢやらう」

「無論左樣です」

「心當りは」

「別に心當りはありません」

「賊の人相風俗は」

「夫も暗いので判然とは分りません、併し其の中の一人は、黑い綾羅紗の外套に頭巾まで蒙つて居ました」

「早速詮議したら、知れん事もないぢやアらう、貴君署まで來て、委しく訴へられては何ぢや」

「今お話し申した外に、訴へる事もありません」

「ア、大分劇しく出血する、早く手當をせんければ不可、貴君歩かれるかね、何なら俥を呼んで」

「ナニ一應宿に歸つて繃帶でもすれば、是ばかりの傷直に癒ます、いろ〳〵お手數を掛けました」

春野は辛ふじて起立つたが、巡査は跡になり前になり、宿の前まで送り届けた。

今は氣が弛んだせいか、全身烈しく痛みを覺ねて、起座すら自由にならぬ。漸と手を拍て植木屋の主人夫婦を呼び、手短かに事情を語り、洋燈に火を點てもらい、疵所を調べて見れば、なか〳〵の重傷、主人は太く驚いて。

「是は大變、鳥渡お醫者を呼んで參ります」と慌しく驅出した。

韓國米の新市場（滿韓商業の連絡）

韓國よりの輸出品は米を以て大宗とすること、十數年來の趨勢にして、日本が韓國の米を買出すだけ、韓國に於ける日本品の需要並に韓民の購買力も高まり、かくして韓國の貿易、即ち日韓兩國間の貿易が年々に進歩發達を來したるは、普ねく人の知る所なり。然るに近數年の商勢を見るに、米の輸出は甚だ萎靡不振に陥り、一昨三十八年の如きは其額百万圓にも上らず。昨三十九年に至りて較々回復したれども、尚百六十万圓に過ぎず。豆類の三百餘万圓、金の五百餘万圓に比して、米が貿易品としての地位を墜したるも亦甚し。總稅務司廳の調査に據るに、此國より輸出されたる米は三十四年に於て略々六百万圓に近く、實にレコードを爲す。三十五年には較々減じて三百餘万圓となりしも、三十六年に至りて又々四百餘万圓に上り、而して其減少の端は三十七年より開かれ、三十八年に至りて前述の如く終に極度に達せり。

韓國輸出品の大宗が何故に斯く急劇に其地位を墜したるやに就ては、勿論種々の理由あるべし。戰爭の影響、不作の影響、日本人及び韓人の需要増加せる結果等は韓國側の原因として數ふべく、之と同時に輸入稅の賦課は日本の側に於ける最大の原因たるべし。詮ずる所韓國は農業國にして、貿易増進の途は只農産の輸出を奬勵する一方あるのみ。輸出の奬勵は則ち又輸入の奬勵にして、即ち間接に日本の生産力を刺擊する所以なる。農産といふも豆あり、棉あり、もとより一ならざれど、差當り最も手早く生産と輸出との増加を期し得るものは即ち米に外ならざるが故に、其商業上の障礙を除くの必要は言を俟たず。此を以て日本の側に於ては輸入稅廢止論あり。韓國に於ては米作の奬勵及び耕作法の改良等專ら農業の方面より生産を増さんとするもの、運輸、金融、取引等商業上の方面より其の販賣を促さんとするものなど、議論として聞くべきもの少からず。此等の主張が實際に行はれたる部分は尚甚だ少けれども、米の輸出が今一たび盛況を呈せんとするは、吾人が此國の爲めに、日韓貿易の爲めに、最も欣ばざるを得ざる所なり。現に昨年は一昨年の約倍額に進み、今年は更に一層の活氣を示して、昨秋來の輸出高は四月末までに三百五十万圓に近しといふ。其主なる原因は勿論天然的なる豐作に在るべし。去れど近時滿洲に對する輸出大に増進せんとする傾向ある如きは、又大に注目に値せずんばあらず。滿洲に在る日本人は未だ甚だ多からずと雖も、其日本米に對する需要は當然韓國の所産を以て之に代用するを得べし。韓國が日本の米倉たる時機は未だ近からざらんも、滿洲の米倉たるは或は遠からざらんか。是れ則ち此國商業の一新發展なり。內地の人々は一概に滿韓といへど、實は滿韓双互の間には從來何等商業上の連絡なし。今や此連絡は米を中心として漸く開かれんとす。吾人は運輸及び金融の機關を司どる者が更に此方面の商業を促進するの用意あらんことを望む。日韓兩國間の貿易も更に促進の要あると勿論なれど、此國の爲めに新市場を開展するの任は日本人に在り。而して唯一に日本人に在るを忘る可からず。

倫敦電報

筑波千歳獨逸行　廿二日東京經由

筑波千歳は獨逸キールに向つて英國シーアネス軍港を拔錨せり

平和會議不安（同上）

海牙來電に據れば露國司法大臣は和蘭司法大臣に對し露國委員等の安全に關して重大の憂懼を懷く旨を電報せり

其結果として警戒非常に嚴重となり露國委員チリドフ氏には晝夜となく秘密の警衛を付し平和會議議場の一室には臨時警官電所設置せられ警官は警報一下直に現場に突進するの用意を爲し議場たる建物の內部は隈なく捜査せられ會議終る毎に凡ての窓戶には直に封印を施すことゝなれり

支那特電

張之洞警告　廿二日上海特發

張之洞は政府に對し多く大官を動かすは徒に民心を動搖せしむるものなりと警告せり

東京特電

寛城子問題　廿二日東京特發

寛城子停車場は名目上折半して日露各々其半部を有することに決定し實際は全部露國に讓り我は其代價として露國より五十六万圓を受取る筈なり

艦隊の蕃社砲擊（同上）

南清艦隊浪速秋津州の兩艦は二十一日上海より基隆に入れり二十二日艦隊は東海岸に廻航し目下討伐中の蕃社を砲擊して聲援を與ふる筈なり

大阪特電

後藤滿鐵總裁　廿二日大阪特發

後藤滿鐵總裁本日神戶の招待會に臨み明日大阪ホテルにて旅行談を試み廿四日京都を經て歸京の豫定

伊藤統監謁見（米國宣教師帶同）

伊藤統監は昨日午後四時村田少將及び國分秘書官を隨へて入闕、同時に古谷秘書官は統監の命を承けて南大門內スクラントン氏邸に赴き同邸に待ち合へる米國メソジスト教會監督クランストン、韓國メソジスト教會監督ハリス、日本メソジスト教會監督本多庸一、米國メソジスト教會傳道會幹事レオナルド、米國メソジスト教會傳道會委員バルチモアー女校學長ガウチャー、京城メソジスト教會宣教師ジョンス、同スクラントンの七氏を伴ひ入闕せり伊藤統監は右宣教師諸氏を帶同して韓皇に進謁し例により侍立して一々順次に韓皇に御紹介申上げ監督以下は敬意を表して退闕せりと云ふ

米總領事着任

京城駐在の米國總領事は久しく欠員となり副總領事パトツク氏其代理たりしが先般サンマウス氏總領事に任ぜられ我天皇陛下の御承認を經たり氏は一兩日前當地に着し就任の挨拶をなすため本日午前十一時伊藤統監を訪問する豫定なり

林駐淸公使の通過

去る十二日を以て北京を出發したる駐淸公使林權助氏は其後滿洲各地視察中なりしが來る二十五日頃當地に着し伊藤統監を訪問して歸朝する豫定なりと云ふ

三中樞顧問出發

東京博覽會の視察を命ぜられたる李址鎔閔泳綺、權重顯の三中樞院顧問及隨員三名は豫定の通り昨朝八時五十分南大門發列車にて日韓多數官民の見送を受け出發したり

古市前長官歸朝

豫定の通り愈本日午前八時五十分南大門發急行車にて歸朝する由

古市博士送別會

鶴原長官、目賀田長官、大屋長官、池田局長及遠藤主計監の發起にて當地文武官八十名許主人となり昨日午後七時より前鐵道管理局長官古市博士を掬翠樓に招待し盛大なる送別會を行ひしが伊藤統監にも臨席あり頗る盛會なりし由

目賀田長官晩餐會

目賀田長官主催の晩餐會一昨夕天眞樓に開催せらる來賓は伊藤統監鶴原長官村田宮岡兩武官、木內鍋島南總長古谷國分兩秘書官、兒玉書記官及古市前鐵道管理局長官並に來韓中なる長谷川造幣局長にして主人側には永濱、鈴木、小林監查官等之に列なり頗る盛會なりし由

徵稅機關擴張

昨年徵稅制度改正の際目賀田顧問は全國樞要の地三十六ケ所に稅務署を又百八ケ所に稅務分署を設置したるが全國三百四十四郡に對し右百四十四ケ所の徵稅機關にては到底一般人民に滿足を與ふる能はず人民側よりも稅務分署の設立を申請する者少なからざりしが從來豫算其他の事情より實施の運びに到らざりしを今度愈々稅務署を五十ケ所に同分署を百八十一ケ所に增設する事に決定したり其設立道別左の如し

道名	現行稅務署數	改正稅務署數	增	現行稅務分署	改正稅務分署	增數
京畿	三	四	一	一一	二〇	九
江原	三	五	二	九	一〇	一
慶北	四	五	一	一四	二二	八
慶南	三	四	一	一一	一九	八
忠北	二	三	一	五	六	一
平南	二	三	一	五	一二	七
平北	三	四	一	六	一一	五
黃海	三	四	一	八	一〇	二
全北	二	四	二	七	一六	九
全南	五	六	一	一三	二二	九
忠南	三	四	一	一一	一五	四
咸南	二	二		五	一〇	五
咸北	一	二	一	三	八	五
計	三六	五〇	一四	一〇八	一八一	七三

漁業と爆藥使用禁止

從來馬山、釜山及木浦等の近海漁業に盛んにダイナマイト其他の爆發物を使用し居りしが該爆發物は危險なるのみならず之が爲に多くの魚を死せしむるも其凡てを收拾する能はざる憾あり殊に其網代を荒らし漁業の發達を阻害し而も斯くして採捕したる魚類は兎角腐敗し易き由にて衛生上宜しからざるを以て統監府は沿海に管轄を有する各理事官に訓令を發し爆發物其他有害物にて水産動物を採捕することを禁じ之を犯すものは十圓の罰金に處することゝし又直接に其爆發物等を使用せざるにも之を製造し又は狀を知りて販賣したるものも同じく罰金を課することゝなりたる由

本年の水産

朝鮮水産組合より其筋に差出したる報告書によれば左の如し

鮟鱇網は出漁船數五百餘隻に及び有明以外の各地より多數の出漁を見しは非常の發展にして注意すべき事項たり又鯛繩鯖繩は稍退歩の姿にして出漁船數稍減少し是に反し鯛一本釣は急激の增加をなせり是れ昨年熊本縣天草地方より約四五十隻の出漁ありしが非常の好結果を得るに起因せるは明かにして前途頗る有望の漁業たるを信ず其他鰆網も漸次發展の兆あり而して韓人も追々本邦漁具の有利なるを信じ日本式鯛繩及日本式鮟鱇網の出漁者著しく增加せしこと注目すべき事項なるを信ず今各種の漁業に就き項を分ちて其槪況を記すれば

△鮟鱇網　七山灘附近の石首魚漁業は稍々好結果にして一隻平均漁獲高三萬尾約百五十圓を得たるも竹島方面に於ては天候時化續きにて且つ恰も八十八夜の當日小潮なりし爲め近來稀れなる不漁にして韓人の水藏船の如き僅數十隻の內荷役を終り京城に出向せし者僅かに二隻にして他はまだ烟島方面に滯在しサバンを使用して高價買ひ出しに從事せるを見るも其不漁の狀況察すべきなり而して一隻平均漁獲高僅かに九十圓に過ぎず又淡水灣門馬梁牛島烟島附近に於ける白石首魚刀魚鯛等の魚業も全く時化のため不漁に終り一隻平均水揚高漸く六十圓內外なりとす然れども何來るべき一潮を發し居れば實收一隻三百圓平均を得るは難事にあらざるべし而して或る部分は仁川又は安東縣方面に移轉しつゝあり

△鯛繩　八十八夜の前後小潮なりしため良好の成績を得今日までの平均水揚高約三百圓に及ぶ因みに記す老練なる漁夫の言によれば八十八夜の當日小潮なれば繩船大漁し大潮なれば鮟鱇網豐漁なりと云ふ近時鯛繩は鹿島狐島以北にあり又南浦方面に移轉するもの多しと云ふ是れは一本釣の侵入せるに起因するものなり其他一本釣鯖繩の狀況は未だ調査するを得ずといふ

詮考規程廢止發表

昨報地方官詮考規程は愈昨日勅令第四十三號を以て廢止せられたり

雇聘巡查來韓

警務顧問部は桐原警視を九州岡山山口の各縣に派し本年度警務擴張に充つべき巡查募集中なりしが今回百三十名契約成立し桐原氏は右巡查を引率し來る廿六日頃聯絡船にて釜山に到着直に入京する由

京元鐵道の運動

熊谷民長和田民會議長中井喜太郎氏山口商業會頭の四氏は一昨夜花月に集合し京元鐵道敷設請願に關する運動方法に就き協議せしが結局中井喜太郎氏の手にて民團民會及び商業會議所の主張覺書を認め熊谷民長携帶東上して當局を往訪する事に決定したり

水道交渉纏まる

京城民團內の水道敷設に關し熊谷民長は過般來七ケ條の條件を水道會社に提出交渉中なりしが同社に於ても略々民團の要求に應ずる事に纏まりたるを以て民長は昨日正午交渉の衝に當れる水道會社の仁星副技師長森脇通譯等を巴城館に招待し饗餐を供せり

民長代理

熊谷民長東上不在中は民團會計役仁科正胤氏民長事務代理を命ぜられたり

仁川教育衛生會

既記の如く昨廿三日午後二時より仁川民團役所にて開會信夫會長開會を告げ横山幹事會務及會計報告をなし議事に移り會長の告辭ありて後上田眼科醫志賀重昂氏の演說あり午後五時閉會したり

野口氏の招待

第一銀行仁川支店長野口彌三氏は本日志賀重昂氏を自邸に招き午餐を饗する筈

志賀氏講話

本日午後三時より朝鮮日々新聞社の主催にて志賀重昂氏の講話會を同地歌舞伎座に開催する由

獻上砲試射

軍部にては明廿四日午前八時半より西大門大韓病院附近に於て過般我陸軍大臣より韓皇陛下へ獻上したる速射砲及機關砲の試驗射擊を擧行する由にて當日は軍相以下軍部將校は勿論我駐劄軍將校も參觀する筈なり、右に付き軍部參謀局長は昨日統監府へ宛て當日射擊方面約八千米突以內に普通人民の通行を禁止されたき旨請求し來れり

一昨日の參內者

總數百八十八名にして內婦人四十九名あり重なる謁見者如左

義陽君李載覺、李宮內大臣、李侍從院卿、李檢査課長、李審査局長、秘書監卿徐相大、高禮式課長、英國オピソン、沈經理院卿

長谷川軍司令官

靜養中なりし同官は病氣輕快に向ひ昨日午前伊藤統監を官邸に訪問したり

古市博士と長谷川氏

古市前鐵道管理局長及長谷川造幣局長は昨日午前統監を訪問して告別の挨拶をなしたり

長谷川造幣局長歸期

古市氏と同行本日歸朝の途に就く由

目賀田長官の訪問

目賀田長官は昨日統監を訪問したり

本多監督の訪問

本多庸一氏は昨日午前伊藤統監を訪問したり

志賀重昂氏

氏は明二十四日朝入京仁川に引還し直に歸朝の途に就く由

李首相の統監訪問

李總理大臣は昨日正午伊藤統監を官邸に訪問したり

熊谷民團民長出發

は豫定の通り愈々今朝八時五十分南大門發列車にて東上す

熊谷民長訪問

は東上暇乞の爲昨日伊藤統監、長谷川司令官、鶴原長官等を各官邸に往訪せり

荻田書記官

出張中の同氏は一昨夕雄基に着したる由

露國總領事夫人一行

昨朝奉天を出發して安奉線に入りたる由

新庄通譯官歸京

忠州出張中の同通譯官は一昨日歸京したり

小林財務官

は約一ケ月間の豫定にて今明日中當地出發咸鏡南北道の財務狀況視察に赴く由

步兵大尉天神井美次氏

は二十一日釜山より來京牧野旅館へ投宿

陸軍一等主計補村松之助氏

は二十一日來京牧野旅館へ投宿

クランストン氏夫人

嚴妃殿下は來韓中なる米國メソジスト派監督クランストン氏夫人を引見せらるゝ筈なるが其日時は昨日までは未定なりし

大屋長官鐵道談片

△鐵道管理局が今後一年なり一年半なりの間に實行したいと思ふことが二つある、一ツは京義鐵道の直通列車、一ツは京釜京義兩線の直通である、京義鐵道は今尙方々で改良工事をやつてるので、來年一月頃ならでは直通列車の開通を見る運びに行かない

これが出來れば今度は京釜線の時間を八時間位に短縮して時間は夜に入るかも知らんが兎も角も兩線の直通を開始したいものだ

△京義線は運賃が高いといふ非難があるが本線はまだ建設時代で色々改良を施さねばならぬ、やがて營業時代となり他の線路との關係が出來て來たなら、どうにか改正を見るの時期もあらうと思ふ、內地でも官線は距離の長いものに割引をするといふ主義から運賃が定められて居らぬ、私設會社は反對であるが

△輸送力の上から見れば京釜線よりは寧ろ京義線の方を增加するの必要がある何にも釜山をば總ての輸送の基點とせんでも他に幾多の方法があるが、京義線は色々の關係からして京釜線以上に增加せねばならぬこれも改良工事が終り諸般の設備が完成した曉には着々と實行が出來るであらう

△京釜鐵道と聯絡船とは密接の關係があるが、本年は色んな故障が聯絡船に出來た、それも一番旅客の多かつた時期であつたから一層困つた、で段々鐵道廳とも協議を遂げて聯絡船を三隻にして不便を補ふことにしてあるが、まだ何時頃から實行さるゝかは未定である

△京元鐵道と云ひ平元鐵道と云ひ近頃問題となつてるようだが、京元鐵道は軍用鐵道として調査したことがある、此線は局の關係のものとして待遇して居るから、何時でも技師を出して測量をもするが、平元鐵道といふのは何にも關係がない、が最初此二線の測量の結果京元線は工事の上に於て平元線に優て居つたが、其後平元の方で別に好い線路を發見したそうだが、京元線も更らに測量すれば平元と同一程度の線路が發見さるゝと思ふ、が局では何れがよいといふような定まつた意見を持てるといふまでに進では居らぬ

△韓國の鐵道は今後幾多の改良を施さねばならぬ、之れには少からざる經費を要するのである。交通機關は勿論尙ほ多くの新施設を要することであるが、旣に出來てあるものを完整することも亦た必要である、假令ば軌道の統一勾配の平均を謀て輸送力の增加を期するといふようなことが澤山ある私設の計畫は別問題であるか、國家としては此點に就て大ひに考慮を要するとである

△平壤鎭南浦間の鐵道も計畫があるやうであるが、こういふ短距離の鐵道は會社としては持てまい、車輛や人間や色々設備も必要であらうし、それで其結果は只だ他の鐵道を肥やすばかりとなる、假令ば宇都宮と日光の鐵道は一會社としては利益がないが日本鐵道が持てば立派な利益ある線路となる、といふような事實が證據である、若し此鐵道が必要とすれば局線としてやるがよからう、そうすれば格段な設備なしに驛員位を增せば出來る

△これはホンの個人の考であるが單に韓國の鐵道として見ずに、更らに大きく觀察したならば滿韓の鐵道を聯絡して之れを結び付けるといふことが必要である、然らざれば鐵道としての完全の効果を收むる場合に立ち至らぬであらう